

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh 10

2019. VOLUME.115

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、この先も共に

特集②

我がJAの販売戦略

JA自己改革/販売力の強化へ

特集①

3支店で「JAふれあいまつり」にぎわう

JA自己改革/地域の活性・地域貢献

おいしい米がとれました!



「みんなのよい食プロジェクト」とは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者のみなさんと一緒に考えて、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り



侘みこし勇壮 踊りも華麗に
～秋まつりで盛り上げ～

当JAの青年部、女性部、JA役職員ら200人は9月8日、「十和田市秋まつり」に参加しました。今年は合併10周年を記念し、名物の「侘みこし」と衣装を新調。青年部員らの勇ましい担ぎ姿や女性部員による「お米ありがとう音頭」の華麗な踊りで、管内の農産物をPRしました。

行列には、ブランド野菜「TOM-VEGE(トム・ベジ)」と県産米「まっしぐら」ののぼりをつけた大型トラクターも出陣。沿道ではポン菓子7,000袋を観客に振舞うなどして、農業の大切さをアピールしました。



<p>企画部/産直準備室 ファーマーズマーケット 「愛称」募集!</p>	<p>募集期間 令和元年8月19日(月)～10月31日(木)必着</p> <p>入賞賞品 最優秀作品 1名様 お買い物券5万円相当 優秀作品 5名様 お買い物券5千円相当</p> <p>応募方法 応募チラシ、官製ハガキ、またはE-mailにて必要事項をご記入の上、ご応募ください。 ①愛称 ②愛称の説明 ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号 ※応募は、何項でも可能とします。 ※愛称は、他に類似するものがなく、重複登録が可能なものに限ります。</p> <p>「JA十和田おいらせ 企画部 産直準備室 愛称募集係」 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 Homioka@jatowada-o.or.jp TEL:0176-23-0312 FAX:0176-24-1829</p>	<p>入賞発表 入賞発表は、JA十和田おいらせ広報誌(1月号)、ホームページに掲載します。採用された愛称の著作権は、JA十和田おいらせに帰属します。</p>
--	--	---

公式Facebook
JA十和田おいらせ

令和元年10月9日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL:0176-23-0311 FAX:0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷

次回外務予定日 11/13(水)～17(日)

けいしょうびと

継承 × 人

たちざき のぶたか
大深内支店管内 立崎 信隆さん(40)

一度きりの農業人生を楽しく！

黄金色に染まった田んぼで、刈り取りをスタートさせた信隆さん。精米所を営む両親と、作業をサポートする地域の先輩農家とともに、洞内地区の米農家約50戸から委託を受けて稲の刈り取り、乾燥・籾摺りを行う。この日は、先輩農家から運転技術を教わりながら、初めてコンバインを運転。「地域の人たちに支えられ、家業の精米所も50年間続けてこられた」と感謝する。

地域の多くの農家と関わり、優しさや心強さを感じている信隆さんは「一度きりの農業人生を楽しく過ごしていきましょう」と笑顔で呼びかける。

高い質と量を追求していきたい

25歳の時に就農し現在、経営者である父と、母と共に農業に従事する。農作業の全般を担いながら、父親の元で栽培管理のノウハウを学ぶ。

「早く自分でやってみたい」の思いから、JAが取り組む育成塾への入塾を考えている。「色々なことを学び、吸収し、良質なものをどれだけとれるか追求していきたい」と、これからの腕磨きに力を込める。



先輩農家と



撮影日…9月26日

地域の農業を守りたい

田畑が周辺に広がり、農業は身近なものとして育った。しかし、現在は耕作放棄地が増え続けている。同世代の農家が集まれば「これから地域全体の農業をどう活性化されていくかを話題にしている」という。

夢は5年後、10年後の地域農業を見据え、農業法人の会社設立を考えている。「物流ルートの確立や生産コストの低減など、農業所得の向上につながる方策を確立し、地域農業の維持・発展につなげたい」と将来像を描く。

プロフィール…たちざき のぶたか 十和田市洞内
組合員=信博さん
家族構成/父、母、妻、妹
農業経営/米4畝、ゴボウ1.2畝、ナガイモ70㎡
ニンニク50㎡

合併10周年記念 JA収穫祭開催

1日目 10/19(土) 午前10時～午後4時

2日目 10/20(日) 午前9時～午後3時

◆開催場所: JA十和田おいらせ本店構内
十和田市西十三番町4-28(官庁街通り)TEL.0176-23-0311

10周年記念コンサート 午後1時30分～

スペシャルゲスト

丘みどりコンサート

10/20(日)

入場無料



- RABラジオ公開生放送
うっちゃんみかちゃんの「県南おもしろ事件簿」
- JA屋台村、新米販売、十和田湖和牛肉の即売(20日のみ)
野菜即売会など

●ももいし支店・下田支店 合同●

合併10周年記念 おいらせ町 秋の農業まつり開催

10/27(日) 午前9時～

◆開催場所: 縄文の森イベントホール
(間木堤・下田公園近く)

9:00 新米「まっしぐら」500g 先着200名様にプレゼント

11:00～ 高校生レストラン

11:45～ ミニせり実演会



13:05～ サエラ歌謡ショー
ほか、新鮮野菜・リンゴの即売会、よさこい、ビンゴ大会など盛りだくさんの催しでお待ちしています!

金融部

ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00～15:00

10月 20日	相談会場 本店・下田支店 七戸支店・むつ支店	11月 17日	相談会場 本店・下田支店 上北支店・むつ支店
------------	------------------------------	------------	------------------------------

各種ローンを取り扱いしております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。



24時間365日受付中

各種ローンがネットで仮申込みできます。

検索方法は「JAネットローン」で検索!!

もくじ contents

あぐれっしゅ

vol.115

10

特集① 4～5p

3支店で「JA ふれあいまつり」にぎわう
～JA自己改革/地域の活性・地域貢献～

特集② 6～8p

我がJAの販売戦略
～JA自己改革/販売力の強化へ～

告知版
企画部

- ・JA収穫祭開催10/19(土)、10/20(日)
- ・おいらせ町秋の農業まつり開催10/27(日)
- ・ローン相談会 …………… 2p

継承人 表紙紹介

大深内支店管内
米農家 立崎 信隆さん(40) …… 3p

NEWS&TOPIC 地域の話 …… 9p

- ・令和元年産米初検査
- ・ナガイモウイルスチェック
- ・水稲種子も作柄上々
- ・働く意義、管内産野菜のおいしさ学ぶ ーほか

子会社通信 …………… 12p

ふれあい広場
頭の体操 パズル? …………… 13p

information …… 14p

- ・懸賞金付き定期貯金キャンペーン
- ・婚活イベント
- ・枝肉共励会入賞者
- ・冬期営業時間
- ・理事会報告 ーほか

役員室のつぶやき

腕じまん

地域じまんのモノ語り …… 16p

十和田市秋まつり盛り上げ
～俵みこし勇壮、踊りも華麗に～

JAの概況 令和元年10月1日現在

正組合員数/6,515人

准組合員数/5,185人

役員数/25人

職員数(准職・嘱託含)/283人

貯金高/779億 911万円

貸出高/176億4,629万円

特集①・・・JA自己改革／地域の活性・地域貢献



上北支店 8.31

かわいらしい園児が太鼓やお遊戯を披露し、会場を盛り上げました。黒石八郎&瀬川さとしさんの名コンビで、トーク・踊り・歌を披露し、会場は笑いの渦に包まれていました。名物の餅つきにも長い列ができ、最後のビンゴ大会では果物や家電製品、自転車などが景品として出品され、多くの参加者に当たり喜んでいました。



- ① 400点の景品が当たるビンゴ大会
- ② 射的も人気 ③ 餅つきで交流 ④ つきたて餅が大人気
- ⑤ 踊りを披露する女性部のメンバー
- ⑥ 園児による力強いステージ

七戸支店

8.31



地元の盛庄酒造「駒泉」の鏡開きで開幕。ステージショーでは、ローカルタレントの横山ひできさんを司会に青森県民謡王座のかすみさんの民謡や七戸高校の生徒による「とらじょサンバ」、保育園児らのお遊戯、よさこいなど繰り広げ、来場者を楽しませました。食の屋台も人気で、地元野菜がたっぷり入った野菜振興会のメンバーが作る焼きそばに行列ができていました。



- ① 会場を盛り上げた七戸高校生の「とらじょサンバ」
- ② 共済部の食育クイズラリーに挑戦
- ③ 女性部の手打ちそばは子どもから大人まで好評
- ④ 振興会、職員による模擬店は大繁盛
- ⑤ 青年部のつきたて餅⑥ステージショーを楽しむ来場者



名コンビの黒石八郎&瀬川さとしさん

3支店で合併10周年記念 「JAふれあいまつり」にぎわう

十和田湖、上北、七戸の3支店は8月下旬、各支店構内で「JAふれあいまつり」を開催しました。JAの生産・協力組織、農機メーカー、農薬・肥料メーカー、青果市場などが協賛。快晴のなか、各会場とも大勢の人でにぎわい、軒を連ねた食の屋台や農業機械の展示、歌謡・舞踊が披露されたステージショーを楽しみました。各会場のにぎわった様子を紹介します。

快晴のもと
笑顔広がる



共済部が実施した
子ども交通安全教室



ローカルタレントの
横山ひできさんと
民謡王座のかすみさん



十和田湖支店

8.24

保育園児の大会セレモニーで開幕。園児の踊り、愛好会によるフラダンスショー、「中条さつき」歌謡ショーなどで会場を盛り上げていました。地元産米「まっしぐら」を使ったきりたんぼは不動の人気。炭火焼の香ばしい味噌の香りが会場に漂っていました。メインの盆踊りでは、大勢の人たちが集まり大きな輪が出来、地域の人たちとのふれあいを楽しんでいました。

- ① 屋台も人気 ② 女性部のきりたんぼは屋台の名物
- ③ 会場を虜にした「とわだこ中央保育園」の園児
- ④ 盆踊りを楽しむ参加者
- ⑤ ステージショーを楽しむ来場者

関西でミネラル野菜
ソムリエがPRへ
～産地の努力紹介～

斗澤康広常務、馬場義満指導やさい部長

関西エリアの消費と販路の拡大に向けた「野菜ソムリエ研修会」には、大阪・京都府、兵庫県に在住する野菜ソムリエ6人が参加しました。当JAの斗澤常務と馬場指導やさい部長が、ブランド野菜「TOM-VEGE(トム・ベジ)」について、土壌診断による健康な土づくりによって品質・収量・食味の向上につながった成果などを説明しました。

関西圏では、すでに平成22年から野菜ソムリエ4人がサポーターとして消費宣伝を支援。現在ではブランド野菜として流通し、知名度が高まっています。当JAは関西エリアにも数多くの「TOM-VEGE」を供給。斗澤常務は「当JA産の野菜がなぜおいしいか説明できる野菜ソムリエを育成し、関西エリアの消費者に直面販売で今より少しでも多く食べてもらうよう、販路拡大の機会を増やしていきたい」と期待を込めました。

参加ソムリエからの声

- ◇関西でも盛り上げていきたい。
- ◇味、品質も高く、多くの消費者に宣伝できる日を楽しみにしています。
- ◇JA、生産農家の産地を思う強さを感じました。



産地の試食宣伝

豊洲市場のキッチンスタジオ「フレッシュ・ラボ」で実施(9/7)

ブランド「TOM-VEGE」
豊洲市場でアピール
～料理提供「おいしいね」～

斗澤康広常務、馬場義満指導やさい部長



斗澤康広常務は、集まった市場関係者を前に20年前から取り組んでいる土壌診断によって土の健康を守り、栄養価の高いおいしい野菜ができることなどを強調してアピール。「試食した人たちから高い評価をいただいた。今後も幅広い食の提案をしていきたい」と話し、販路拡大へ意欲を示しました。

会場の声

- ◇試食した市場関係者より
「すべての野菜がきれい。ナガイモのソテーは初めて。おいしい。いろいろな食べ方を試してみたい」
- ◇企画する東京シティ青果の担当者より
「過去にない盛況に社内、場内仲卸とも驚嘆しました」
- ◇販売店・消費者サイドで幅広いネットワークを持つ野菜ソムリエさんより
「たくさんの方が興味を示していました」



平成30年10月に開場した豊洲市場では、卸売場にキッチンスタジオ「フレッシュ・ラボ」を設置し、今年2月から各県が産地のPRに活用しています。当JAも今回初めて、ブランド野菜「十和田おいらせミネラル野菜(TOM-VEGE)」のトップセールスと試食宣伝会を行いました。1JAが単独で実施するのは、めずらしい取り組みになります。

試食宣伝では、野菜ソムリエによるナガイモソテー、トマト、春菊の胡麻和え、ネギ焼きなど、それぞれの特性を生かした4品を100食ずつ提供。「ぼけしらす」ネギ、トマト、春菊、ナガイモ、ニンニクなどの野菜セットのプレゼント300セットが20分足らずでなくなる盛況ぶりでした。



産地
拡大
所得
増大



特集②・・・JA自己改革／販売力の強化へ

我がJAの販売戦略

当JAでは農産物の販売力の強化に向け、青果市場や取引先の仲卸業者へ直接足を運び、市場側との情報共有、産地の課題・要望等について意見交換しながら、商品提案による有利販売、新規販売ルートの開拓などにつなげています。また、今回初の試みとして9月、豊洲市場でのブランド野菜「TOM-VEGE」の試食宣伝会、関西地区では野菜の販路拡大に向け、消費宣伝をサポートしてもらう「野菜ソムリエ講習会」を開きました。

今回の特集では、2つの初の取り組みと合わせ、米・野菜の販売要請レポートを紹介します。

米の販売要請

関西首都圏の米卸業者5社を訪問(9/3～5)

当JA初の単品販売が好評！
～複数年契約の提案も～

竹ヶ原幸光組合長、小笠原一成米穀畜産部長

東海地方のスーパーで、30年産米から販売を開始した当JA産指定の産地精米「まっしぐら」は、堅調な販売が続いています。産地精米による単品販売は当JA初の取り組みで、品質、味の良さ、値ごろ感で、消費者・実需業者から高い評価をいただいています。

管内産「まっしぐら」は、弁当類などの業務用米、ブレンド米としての取り扱いが主流となっています。各業者は「クレームのない米」として重要視し、複数年契約で産地が安心するのであれば、前向きに検討したいという業者もあります。その際には契約金額の設定として、上限・下限の価格を設けるなど、生産農家取り組みやすい仕組みが必要と考えています。



米の消費低迷、本年産の豊作基調により、令和元年産米は厳しい販売が続くと予想されますが、単品販売の好調さは明るい兆しです。今後とも「まっしぐら」の産地をアピールし、米農家の手取り額アップに反映できるよう、有利販売をめざします。